

## 「ショートステイの誤薬事故」で経過観察中に急変

— 「誤薬事故は即受診」のルールを徹底 —

## ■ 「利用者の身体に重大な影響はないと判断」

ある知的障害者施設（ショートステイ）朝食後の服薬時に、「利用者の取り違い」による誤薬事故が発生しました。利用者Aさん（女性61歳、体重32kg）は自らの薬を服薬した上に、同じ姓の利用者Bさん（女性35歳、体重55kg）の薬も誤って飲まされてしまったのです。誤薬をした看護師は「Aさんの身体に重大な影響はないもの」と判断し家族連絡をすることもなく、経過観察の対応としました。しかし、経過観察中にAさんは意識不明となり、病院に救急搬送されました。病院での処置が早く一命は取り留めましたが、その後1ヶ月間の入院はAさんの重大な身体機能低下を招きました。家族は看護師を「業務上過失傷害の疑い」で、刑事告発しようとしています。

Aさんが間違って飲んだ薬：ラシックス錠（フルセミド錠）40mg、アクトス錠（ピオグリタゾン塩酸塩錠）20mg

Aさん自身の服薬：ワーファリン錠（ワルファリンカリウム錠）5mg、

【薬効】ラシックス：高血圧症、アクトス：糖尿病、ワーファリン：脳梗塞、



## 誤薬した薬がその人の身体に与える影響は予測できない・・・

## 《誤薬した薬がその人の身体に与える多様な影響》

誤薬した薬はその人の身体にどのような影響を与える可能性がありますでしょうか？誤薬した利用者の服薬・疾患・体格・食べた物などによって影響が異なると言われており、その影響は多様です。今回のAさんのケースにおいて、主なものをまとめると次のようになります。



- ① 高齢者に多い高血圧症や糖尿病の薬を誤薬すると、低血圧や低血糖を起こす可能性があります。
  - ➡ ラシックスは薬効の強い血圧降下剤であり、一般の成人であっても低血圧状態になるおそれがあります。
- ② 誤薬によって間違って飲んだ薬と自らが服用している薬の相互作用で副作用が起こる可能性があります。
  - ➡ アクトスとワーファリンを併用すると、アクトスの血糖降下作用が増強され強い低血糖を起こすおそれがあります。
- ③ 誤って飲んだ薬がその人の疾患に対して悪影響を及ぼすことがあります。
  - ➡ ラシックスの強い利尿作用によって、Aさんの場合、血栓塞栓症を誘発するおそれがあります。
- ④ 高齢者では体格や年齢により処方量が異なり、処方量の多い人の薬を誤薬すると影響も大きくなる。
  - ➡ Aさんは体重が32kgに対してBさんは55kgです。Bさんの処方量は多く、Aさんの身体への影響が強くなります。
- ⑤ 高齢者では少量から投与を開始し処方量を増やす薬もあり、いきなり規定量を服薬すると影響が強くなります。
  - ➡ アクトス、ラシックス共に、「高齢者へは少量から投与を開始し経過を観察しながら増量する」との記載があります。

担当課・支社 代理店

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

マーケット開発部 市場開発室

担当：堀江・高橋 TEL 03-5789-6456

株式会社福祉施設共済会

東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSTビル

電話03-5466-0881 FAX03-5466-0882